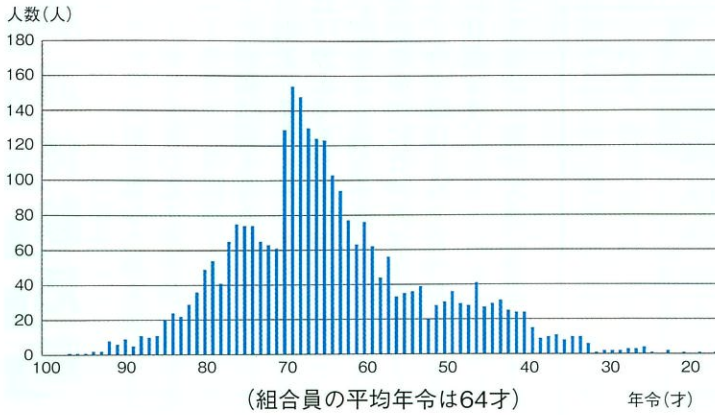


# 持続できる組合のために

魚沼漁業協同組合は、将来にむけてのいくつかの大きな課題を持っていきます。最大の課題はなんとといっても、組合員の高齢化と著しい人口減少にあることです。今から十二年前には約四七〇〇人いた組合員も本年では約二七〇〇人とわずかな期間に二〇〇〇人も減少し、その勢いは、左の年齢構成表からも推測できるようにこれからも続いていく状況にあります。

## 年齢・年代別組合員数の状況 (平成29年9月現在)



主な要因は、組合員の平均年齢が昨年九月で六十四才というように、高齢化であり、年齢により退会する方々に比し、新規に加入してくれる方がなかなかないといったことにあります。日本全体が人口減少社会に入り、また、生活様式の変化や価値観の多様化の中で、漁業やレジャー、趣味での釣り人口が減ってきている状況があります。将来にわたって豊かな漁場や自然環境を守り、持続できる漁協となれるよう、あらためて本部・支部・分会、個々の組合員の皆さんとの共通認識の中でさらなる知恵と工夫で構築していくことが大切です。

### コラム 内水面漁業と多面的機能

内水面漁業とは、河川や湖沼で行われている、魚などを増殖して漁獲する漁業のことです。法律で増殖義務が課せられていることが最大の特徴です。増殖とは、人工孵化放流、種苗又は親魚の放流、産卵場造成などのように、積極的に水産動植物を増やす行為を指しています。全国の内水面漁協では、アユ・ヤマメ・ウナギ・コイ・フナ等、資源として重要な種について増殖事業を行っています。

内水面漁協では、規則を定め(都道府県知事の認可)、漁協組合員や遊漁者からお金を集めて、これら種苗放流などの増殖経費に充てています。これらの漁業活動を通して、内水面漁協は河川環境の改善や河川に係る伝統文化・食育・釣り場の提供・地域振興など多面に亘る活動を行っています。

## あけましておめでとうございます

- 代表理事組合長 皆川 雄二  
 副組合長理事 鈴木 政幸  
 理事 星 和男  
 町田 誠  
 遁所 立男  
 上村 隆志  
 小林 孝  
 小池 信通  
 中山 雄一  
 木暮 一  
 塩谷 寿雄  
 和田金一郎  
 代表監事 米山 信男  
 監事 星野 勇二  
 永井 昭夫  
 職員一同

## 編集後記

「村度(そんたく)」昨年の流行語大賞の一つでした。国会などでは「意向を察して便宜を図る」というような悪い使われ方になっていましたが、本来の意味は「他人の気持ちを推しはかる」なのだそうです。

さて、こよなく魚達を愛し、追い求めている漁師(フィッシャーマン)と釣人(アングラー)、その躰の奥底に流れる原始の熱い血潮は同じなのでしょうが、ときにそれぞれの思い入れの強さやこだわりから相容れない、深い溝を作ってしまったっている場面に出くわすことがあります。

狙う魚種、食べる(キープ)か放流(リリース)か、教えてくれた師匠や友人、時代背景や道具の進化、情報化などなど、いろんな要因があるのでしようけど、あらためて、相手の気持ちを推しはかることが大切と村度の意味を考えます。

やっぱり、「KY」(空気読めない)とか、「自己中」、「独りよがり」とかにならないよう気をつけたいものですね。

そして今年も、今年こそ、この素晴らしい魚沼のロケーションの中で、充実した幸せの時間に浸りながら、美しく、力強く、美味しい魚達を捕って、撮って「インスタ映え」やっちゃってほしいと思います。

戊戌 初春  
祈る大漁・大魚開運!

